

■「令和の里海づくり」モデル事業における取組

活動地域：荒川下流（東京都）

活動団体：NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム（荒クリ）

モデル事業概要	
採択年度	2022（令和4）年度
モデル事業	<p>東京湾奥部の荒川下流で、トビハゼの生息数のモニタリング調査と、トビハゼをシンボルとした参加型のごみ拾い活動を実施し、泥干潟の保全や河川・海洋ごみの削減につなげる。</p> <p>近隣大学からのインターンシップ生の受け入れにより今後の活動の担い手となる人材を育成し、環境保全活動のフィールドとしての企業の受け入れを行うことで、持続的な活動の仕組みを構築する。</p>
背景	
地域の資源	<p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 東京湾から姿を消し、その後復活したトビハゼ（環境省指定：準絶滅危惧、東京都指定：絶滅危惧 IA 類） ◇ その他、干潟に生息するカニ類、貝類などの干潟特有の生態系や野鳥など <p>【アクティビティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 東京都心の水辺空間として、近隣住民の憩いの場として活用（ランニング・ウォーキング・サイクリング等）
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 埼玉県の秩父地方から流れる荒川では、下流域に多くの河川ごみが漂着する。河川ごみの問題や、都心に残る干潟の希少な生態系について、地域住民や流域企業の理解は不十分であり、保全活動への参加や継続性にも課題がある。 ◇ 河川ごみ問題は流域一帯で取り組むべき課題であるが、十分な流域自治体の連携や意識醸成には至っていない。
令和の里海づくり（保全と活用の好循環形成）	
好循環形成のビジョン	
<p>（保全）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 荒クリでは、企業や地域住民による参加型の河川・海洋ごみの清掃活動を行い、トビハゼを指標種とした干潟のモニタリングを行うことで、ごみの削減とともに干潟の環境保全に取り組んでいる。 <p>（活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 一度は東京湾から姿を消したが、再び生息することになり、準絶滅危惧種に指定されているというユニークさのあるトビハゼを保全活動のシンボルとすることで、活動の注目を集めるべく、ツールの作成や情報発信を実施している。 	

- ◇ 河川ごみ・海洋ごみ問題を間近に感じられるフィールドが東京都心にあるという立地特性を活かし、企業の ESG 活動の拠点となるように公募型清掃活動や企業連携型の清掃活動を実施している。

(好循環形成・促進)

- ◇ トビハゼから興味を惹き、保全活動に参加いただくことでトビハゼの生育環境が守られるという循環を構築・発信することで、新たな活動の担い手を取り込んでいく。
- ◇ 荒川下流が企業の継続した ESG 活動の拠点となることで、荒クリとしても実施する保全活動に対して安定した活動資金が得られるようになり、保全活動の持続性が担保される。
- ◇ 荒クリにおいて、近隣大学等から環境問題への意識が高いインターンシップ生等を受け入れ、人材育成を行うことで、それらの方々が学生向けの情報発信の担い手となるほか、就職先の企業で団体と連携した清掃活動を行うなどして、次期の人材育成や企業の受け入れにつながり、保全活動が広がっていく。